

医療薬学特論Ⅱ

責任者：那谷 耕司 教授

担当講座（科）：臨床医化学講座、神経科学講座、分子生物薬学講座

講義 15時間

単位 1単位

学年

4学年 後期

学習方針

基本理念：

医療薬学特論Ⅱでは、医療系薬学の各科目の重要事項を再確認し、より実践的で総合的な考察力を身につけることを目的とする。従って授業は各担当講座が分担して行い、広範囲の分野に渡る知識を体系的に学ぶ。更にこれらの学習を基礎としてより専門性の高い最先端の知識や技術に関しても学び、専門知識を総合的な観点から有機的に体系づけて学習する。

一般目標（GIO）：

遺伝子機能と疾患関連遺伝子との相関を概観するとともに、医薬品の標的をまとめて復習する。さらに、消化器潰瘍や高脂血症の治療薬に注目して、それら医薬品の構造、作用機構、標的となる生体成分とその細胞内制御などを総合的に学ぶ。

細胞生理・神経科学での講義から、特に薬学領域で必要な（1）器官の構造と機能について（2）細胞間情報を担うホルモン・神経伝達物質の機能（3）中枢神経系疾患の病態と対応薬品に関する知識を整理し、復習する。さらに、現在、これらの領域でなされつつある発見や最新情報についても学び、薬学的視点から今後の研究の方向性についても考察する。

生活習慣病の新しい概念であるメタボリックシンドロームの病態、現代医学における最重要課題のひとつである糖尿病治療の最先端について概説し、これらの疾患とその治療についての理解を深める。また、病態生化学、医療薬学の講義を通じて学んだ種々の疾患について重要事項を再確認し、再生医学、遺伝子多型などの最先端医療との関連について解説することで、疾患の病態・治療に対する理解を深める。

到達目標（SBOs）：

1. 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。
2. 代表的な疾患（癌、糖尿病など）関連遺伝子について説明できる。
3. 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。
4. ヒト生体内の器官の構造と機能について説明できる。
5. 主なホルモン・神経伝達物質を列挙でき、その機能について説明できる。
6. 主な中枢神経系疾患の病態を説明できる。（☆）
7. 現在、使用されている中枢神経系疾患治療薬を列挙でき、その作用機序を説明できる。

8. 現在使用されている、消化器潰瘍や高脂血症に対する治療薬を列举し、その作用機序を説明できる。(☆)
9. 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。
10. 生活習慣病のリスク要因を列举できる。
11. 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。
12. 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
13. 糖尿病の最先端治療、糖尿病研究の最先端について説明できる。(☆)

講義日程

月日	曜	時限	講座(科)名	担当者	内 容
8/23	火	2	分子生物薬学講座	前田 正知 教授	医薬品とその標的
8/30	〃	〃	〃	〃	消化器潰瘍と医薬品
9/ 6	〃	〃	〃	〃	高脂血症と医薬品
9/13	〃	〃	神経科学講座	駒野 宏人 教授	器官の構造・機能について
9/20	〃	〃	〃	〃	神経伝達物質、ホルモンなどの細胞間情報伝達物質のまとめ
9/27	〃	〃	〃	〃	中枢神経系の疾患とその治療薬のまとめ
10/ 4	〃	〃	臨床医化学講座	那谷 耕司 教授	メタボリックシンドローム、代謝疾患の病態
10/11	〃	〃	〃	〃	糖尿病に代表される生活習慣病の最先端治療
10/18	〃	〃	〃	〃	糖尿病研究の最先端
10/25	〃	〃	〃	〃	現代の医療における再生医学の関わり

教科書(教)・参考図書(参)・推奨図書(推)

	書 名	著者名	発行所	発行年
教	病気がみえる vol. 3 糖尿病・代謝・内分泌 第2版 (薬剤治療学 I 教科書)	医療情報科学研究所 編	メディックメディア (定価 3,000 円)	2008
参	スタンダード薬学シリーズ6 「薬と疾病II 薬物治療(1)」	日本薬学会 編	東京化学同人 (定価 5,300 円)	2005
参	インクレチン治療 : GLP-1 受容体作動薬と DPP-4 阻害薬による新たな糖尿病治療	稲垣 暢也 他 編	フジメディカル出版 (定価 3,000 円)	2009
参	糖尿病学 : カラー版 : 基礎と臨床	門脇 孝 他 編	西村書店 (定価 18,900 円)	2007

	書名	著者名	発行所	発行年
参	スタンダード薬学シリーズ8 「医薬品の開発と生産」	日本薬学会 編	東京化学同人 (定価 3,400 円)	2005

成績評価方法

定期試験、小テスト、レポート、出席、聴講態度などから総合的に評価する。